童

2012　11.28

　例年よりも早く 11 月に雪が降っています。私の記憶では、11 月にスタッドレスタイヤにかえることは、ここ数年なかったように思えます。小さいころは、11 月に雪が降るのは当たり前。冬は 11 月から始まり、いつも雪の中にリンゴが実り、その中で収穫をしていたような気がします。
　志賀高原や北信五岳の山々が真っ白に染まり、本格的な冬がそこまで来ているようですが、子どもたちは、毎日熱い時を過ごしています。
　わらべうたのノリはすさまじく、安定して同じわらべうたをじっくりと考え、ノンたん母さんを中心にしっかりとスタッフ全員で取り組み、子どもたちもものすごく楽しんでくれて、室内では延々とわらべ歌を楽しめる子どもたちになっています。
　そして、散歩の範囲もすさまじいほどあちこち歩いています。先日の七五三の参拝のための、倉井神社への道のりも、荒れ果てた雑木林のルート、直線距離で 100m 足らずなのに、藪と傾斜の中、ななんと 1 時間半もかかってたどり着いたジャングル冒険旅行。小さい子たちも、皆、年長年中の大きな子どもたちのサポートのもとで、歩き続けました。普段ではおんぶ抱っこの環境ですが、藪や枝がすごく顔にあたるので、伏せながら歩くのが 1 番安全です。
　こんな生活をしているので、未満児、年少児はとても大きい子どもたちから愛されて暮らしています。人が仲良くなるのは、机上の話し合いではなく、同じことを楽しむ、一緒に作る、遊ぶなどが原点であると、子どもたちから教えられています。

【自分のために生きる】

　長男が山小屋から帰ってきて 1 ヵ月。この連休には、長女がリンゴの手伝いのためにベトナムから直行してきた。長女は京都で働いているが、長男の影響か、4 日ほど一人でベトナムへ行ってきたらしい。もちろんツアーではなく、バックパッカーのバイブル「地球の歩き方」を手にして、旅をしてきたらしい。次男を除き、久しぶりに賑やかな家族が勢ぞろいした。

　長男は、連日、来年の本格的な海外登山のために装備の選定をしている。南米のアコンカグア登山では、全て 3 流の装備（テントはアウトレットの 2 流品、シュラフは 3 シーズン用、ｺﾝﾛは 500 円のパチ物、洋服ももちろん偽物）で奇跡的に運よく生き延びれたらしく、今考えるとぞっとするらしい。その教訓から、命を守るため、超一流の本格装備を海外から取り寄せるべく選定している。予算のほとんどはそれに回るらしい。
　アルバイト暮らしのため、スポンサーを見つけてやったらどうかと提案してみても、あまりその気はないらしい。先日、ある人との会話を横で聞いていた。スポンサーを見つけるのだったら、登山の大義名分が必要である。例えば「挑戦する姿で人を感動させる、勇気つける」とか「感動を与える共有する」とか「その姿から人を元気つける」とか。社会的なメリット、インパクトがないとスポンサーは集まらないという話であった。
「君はどうかね」と聞かれると、長男ははっきりと「山登りは、全て自分のためです。他人は関係ないです。すべて自分のために登るだけです、それ以外何もないです」と目をキラキラさせて答えていた。あまりの潔さと飾り気のなさと男気に感動した。

　そして、長女。この子は典型的な自分のために生きてきている娘。そんな娘がこんなことを話していた。数か月前、アフリカのウガンダの孤児院（長男も 1 ヵ月間ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱをしていた）に行く前に、1 週間ほど大地で研修していた女性の事である。その人は、「生まれてから全て、他人のためにするということが、自分のモチベーションであり、生きがいであり、それが全ての私のエネルギーや行動の原点、支えである」と話していたらしい。「そんな人に初めて会った、私とは全く正反対である。私は、全て自分のために生きてきた」この娘も、違った意味で潔く、自分のことを話していた。

　そんな会話を聞きながら、自分の人生を振り返ってみた。ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動という言葉を聞いたことがない子どもの頃は、田植えや稲刈りなどの農作業は、近所の人たちがお互いに手伝いあって暮らしていたことがあるくらいである。
　若いころはすべて自分のためにギラギラ生活していたような気がする。「他人のために」何かをするというよりも、自分の欲望や手に入れること、目指すことにギラギラしていたように思う。
　20 歳の時のオーストラリア砂漠バイクの旅も、何の大義名分もなく、ただ自分で走りたい、行ってみたいから出かけた。
　保育士になろうと決めたのも、自分が楽しい暮らしが子どもたちとできそうだと思えたからだし、結婚しようとしたのも、お互いにクリエイティブで楽しい人生が構築できそうで、素敵な人生を更に送れそうだと思ったことだし、全て自分のための人生のように思える。

　大地開設も、既存の保育園では楽しくなかったので（自分が）、自分が子どもたちと楽しい環境で暮らしたいと思い、創ることを楽しみながら建築そして開設した。これも全て「自分のために生きてきた」と言うことだ。

　何か事を始めるためには、膨大なエネルギーが必要であると思う。特に創生期は。その源は、もちろん「自分のため」「絶対に負けない」「見返していやる」「一攫千金」などのギラギラしたエネルギーがあることは否定できないし、むしろ、このエネルギーは絶対的に必要だと思う。ただ、離陸時には必要であり、安定飛行に入るのは、これでは続けられないが。

　若さの代名詞とは、このギラギラしたエネルギーであると思う。今は、あまりにも「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ」とか「他人のために」などが大義名分としてもてはやさりちやほやされ、それが生きる証明であったり、自分の存在を確認するためであったりしている傾向があるように感じる。

　私が知る限り、大地にやってくる若者や子供たちの友人を見る限り、皆、ギラギラして自分の夢や好きなことに精力的に、そして 24 時間フルに使って、すごいエネルギーで生きている。そんな若者たちは、やはり、同じエネルギーで様々な施設や農場などでもお金のためではなく、キラキラと活動（あえてﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとは言わない）をしている。

　マザーテレサやアフリカに渡った先の女性のような「他人のため」に生きる人も、最高に素晴らしく尊敬と憧れと目標になる生き方であるが、中途半端に丸く納まったり世間体を気にしたり、大義名分をかざしたりする人生ではなく、ギラギラとして「自分の夢や目標」に本気で生きる若者も、大いに応援されるべき世であってほしいと願う。